

商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2016年3月調査結果-

調査要領

- 調査期間 2016年3月8日～15日
- 調査対象 200社
- 回答企業 108社
- 回収率 54.0%

※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの企業割合) - (減少・悪化などの企業割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 従業員：(不足) - (過剰)

旭川市概況

※全産業の3月の状況を見ると業況DIは、前月より0.8ポイント回復の▲25.6。

2014年4月以来24ヶ月連続マイナス水準で推移している。

業種別では、建設業、卸売業、小売業の3業種において回復した。

※向こう3か月の先行き見通し業況DIは▲17.4と当月に比べ8.2ポイント回復を見込んでいる。

業種別で見ると、建設業、卸売業、小売業、サービス業の4業種において回復が見込まれている。

旭川市全産業 DI 値（前年同月比）の推移

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	先行き見通し 4～6月
業況	▲27.9	▲37.1	▲30.0	▲33.6	▲26.4	▲25.6	▲17.4
売上	▲18.1	▲42.9	▲20.0	▲28.4	▲22.7	▲19.2	▲12.8
採算	▲23.8	▲37.1	▲30.0	▲29.2	▲22.6	▲20.2	▲16.5
仕入単価	▲32.7	▲33.3	▲26.0	▲20.6	▲22.6	▲22.0	▲22.9
従業員	25.7	18.1	21.0	15.9	16.1	26.6	28.7
資金繰り	▲9.5	▲17.1	▲14.0	▲12.4	▲11.3	▲14.8	▲11.1

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	先行き見通し 4～6月
建設	▲40.9	▲21.7	▲30.5	▲54.6	▲27.3	▲26.1	▲4.4
製造	▲14.8	▲27.6	▲23.1	▲14.3	▲14.2	▲23.1	▲23.1
卸売	▲30.4	▲42.9	▲30.0	▲33.3	▲40.0	▲28.0	▲24.0
小売	▲55.6	▲70.6	▲52.6	▲47.6	▲55.6	▲36.8	▲31.5
サービス	7.1	▲33.3	▲8.3	▲22.2	0.0	▲12.5	0.0

今月のトピックス（業界の声）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> ・年度末の為、工事竣工前の請負額に対する設計変更増額により売上・採算が昨年を超え好転となった。 ・当月においても売上は思うように伸びず、今後も前年割れの状況にて推移するものと思われる。 ・冬期間の業況は極めて悪い。進出した農業分野の商品ブランド化は 10 年目にして花が開き始めている。
製造業	<ul style="list-style-type: none"> ・前年と同程度で推移 ・全体需要が減っていることから、危機感を持って受注活動を行い前年並になる見通しがついた。 ・例年 3 月は年間の中でも受注件数・金額ともに多いつきであるが、昨年は統一地方選挙が 4 月にあり、3 月より選挙関連の受注があった。本年はそのカバーをすることが難しい。 ・当社製品の市場の先行きが見通せない。 ・売上は増加傾向で推移しているが、経費増（販管費）を吸収できていない。 ・先月までの受注には及ばないものの、需要期に入り売上は活況。4 月まで生産高も高めで推移する。
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> ・売上上昇になっても売掛金パーセンテージ増加、買掛金パーセンテージ増加となる。資金繰りには注意をしていかなければならない。アベノミクス効果を期待するもその効果は未だ出てこない。個人消費に期待するが西武クローズ etc マイナス報道に不安感を感じ消費までいかない気念も感じる。 ・前年度よりも少しだけ業況は良い ・石油製品全般において、仕入値は上昇傾向にあるが、小幅な動きになると思われる。 ・商品の流れは年度末でかなり動いているが、前年比はマイナスで推移しそう。全体的には売上・粗利とも未達成、今後も好材料はなく、この傾向は続く。 ・大都市大型市場と短い需要期に瞬間的にたくさんの荷を集荷する相場展開が同調するとコストパフォーマンスで大きな差が生じる。結果として集荷できにくくなる。
小売業	<ul style="list-style-type: none"> ・春物の本格的な立ち上がりのシーズンだが全体的に集客が少なく例年に比べ動きが鈍い分厳しめ。ドレスアイテムを扱うところは新卒や入学などで需要があるが、カジュアルメインの店舗は苦戦している印象。 ・注文数が減少傾向にあるため売上が減少している。今後もこの減少傾向が続く見込みとなっている。
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年はイオン OPEN に伴う特需があった関係で良すぎた。又、新規ホテルが出来たことにより需要が分散、一昨年をも下回る業績見込。 ・冬まつり期間、外国人利用者は前年比で 150%以上。人員不足であったが、超過勤務で何とか乗り切る。 ・冬まつり以降、国内客、インバウンドの動きが極度に悪い。この傾向は旭川に関しては 4 月いっぱい続くのでは。ここに来て大型店の閉鎖等明るい話はなし。早く行政も含めて情報交換・収集等の開示を。 ・富良野地方はお客増。札幌も売上増。釧路方面増、旭川地方売上減。西武の撤退で地元企業は苦戦。全体で 6.5%増。ニセコの注文増から工場新設しかない。 ・年度末に入り業務がピークを迎えている。 ・インバウンド前年 85%増客のプラス材料も、新規ホテルオープンで国内一般客厳しく、減収。 ・歓送迎会の時期だがあまり人出は多くないように思われる。月末から 4 月上旬に期待したい。 ・車輛販売が減少。板金塗装作業減少。銀行借入が厳しくなっている。

旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 DI1.2 ポイント回復、採算 DI9.9 ポイント回復、仕入単価 DI10.0 ポイント回復、資金 DI4.0 ポイント悪化、従業員 DI は 30.4 ポイント増加し不足感が高まった。総じて業況 DI は 1.2 ポイント回復となった。業種別では、設備その他 13 ポイント悪化。総合工事 3 ポイント、建築 20 ポイント回復となった。年度末のため工事竣工前の請負額に対する設計変更増額により売上・採算が昨年を超え好転となったとの声も寄せられている。</p>
製造業	<p>売上 DI7.4 ポイント悪化、採算 DI4.9 ポイント悪化、仕入単価 DI9.0 ポイント回復、資金 DI0.5 ポイント悪化、従業員 DI1.6 ポイント増加し不足感が高まった。総じて業況 DI は 8.9 ポイント悪化となった。業種別では、金属窯業他 3 ポイント回復、食料品、家具木材横ばい。印刷出版 50 ポイント悪化となった。売上は増加傾向で推移しているが、経費増（販管費）を吸収できていないとの声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>売上 DI9.0 ポイント回復、採算 DI3.0 ポイント回復、仕入単価 DI4.0 ポイント回復、資金 DI2.5 ポイント回復、従業員 DI2.0 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 12.0 ポイント回復となった。業種別では、繊維 50 ポイント、食料品 7 ポイント悪化。機械鋼材 50 ポイント、その他 22 ポイント回復となった。商品は年度末で動いているが、前年比マイナス推移。全体的に売上・粗利とも未達成。今後も好材料は無くこの傾向は続くとの声も寄せられている。</p>
小売業	<p>売上 DI24.8 ポイント回復、採算 DI2.6 ポイント回復、仕入単価 DI15.4 ポイント悪化、資金 DI4.1 ポイント悪化、従業員 DI は 19.9 ポイント増加し不足感が高まった。総じて業況 DI は 18.8 ポイント回復となった。業種別では、自動車横ばい。衣料品 33 ポイント、食料品 20 ポイント、その他 30 ポイント回復となった。注文数が減少傾向にあり売上も減少している。今後もこの減少傾向が続く見込みとなっているとの声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>売上 DI0.7 ポイント悪化、採算 DI4.8 ポイント回復、仕入単価 DI14.5 ポイント悪化、資金 DI13.1 ポイント悪化、従業員 DI9.7 ポイント増加し不足感が高まった。総じて業況 DI は 12.5 ポイント悪化となった。業種別ではクリーニング、その他、飲食、運送横ばい。ホテル 20 ポイント、整備業 25 ポイント悪化となった。インバウンド前年 85%増のプラス材料も新規ホテルオープンで国内一般客厳しく減収との声も寄せられている。</p>